

都会の皆既月食 暗い空が良いとは限らないこと

10月8日の皆既月食。撮影計画を立ててカメラも清掃して、着々と準備を進めていたところが、急に東京出張の予定がはいつてきました。せっかくの天文現象なのに、まさかこのようなことになろうとはと、一旦打ちひしがれてしまったのですが、気持ちを切り替えて、帰宅までの隙間で都会での月食を堪能しようと計画を立てなおしました。

そして当日。地元は晴れていたのに新幹線で東に向かうに従って雲が増え、到着した東京はどんより雲でした。

仕事の会議は大手町の高層ビル 24階で行われ、私は東向きの窓に向かう形で着席することになりました。するとテーブルの書類から目を上げたときに外の景色が見えるわけで、ついつい気になって窓の外の様子を眺めてしまいました。会議が始まった16時前はまだ雲も厚かったのですが、時刻が進むにしたがって徐々に雲が切れはじめ、晴れ間を見つけるたびに、ついつい頬が緩んでしまいます。そして17時過ぎには快晴になって、いよいよ地平線から月食前のまんまるの月が昇ってくると、もう自然に笑いがこみあげてきてしまいました。周囲から見ると、外を見てはニヤけているのですから変な人だなあと思われたかもしれませんが、これはもう仕方ありません。

そして会議が終了したのは17時40分頃で、月食が始まるまで30分余り。すぐに撮影予定場所に向かうことにしました。東京で月食を見るということで、名所はいろいろ考えられるものの、狙いを定めたのはやっぱりスカイツリーであります。偶然にも？8月(宇宙博を見に行ったとき)に周辺を見ていたので、カメラのセッティング場所を定めるのは容易でした。浅草に到着したのは18時15分過ぎで、すでに少し月が欠け始めています。隅田川右岸を上流に向かって歩いていくと、川べりにはたくさんの人がカメラを構えて月を眺めていました。また、堤防沿いには、スカイツリーを眺められるいくつかのカフェがあり、そんな場所でツリーと月をめながら時間の過ごすのはとても贅沢だなあと思いつつ、幸せそうな何組ものカップルを横目で眺めながら予定の場所に向かいました。

結局、カメラをセッティングしたのは、言問橋の袂で、そこから広角レンズで連続撮影をしながら月が欠けていくのを眺めました。

でも、そうそうゆっくりはしてられません。家に帰る終電車の都合から、観望は20時が限界です。そこで19時40

分頃に現場を撤収、駅に向かいながら写真を撮って、当日の予定は終了しました。

皆既中の星景を狙わないなら月食観望には必ずしも暗い空は必要がありません。今回は、図らずも都会の夜景を眺めながらの月食観望となりましたが、これはこれで素晴らしいものがあります。というより、病みつきになりそうな予感です。

次の皆既月食は4月4日ですが、さて、田舎で見るか都会へ行くか、今から悩ましい問題です。



メカが大好き プリズム状光学フィルム SOLF

SOLF は、3M 社が製造するポリカーボネート製の光学フィルムで、片面に微細なプリズムが刻まれた構造をしています。

もともとはデコレーション用の材料らしいのですが、このフィルムを通して景色を眺めると、プリズムを通すのと同じように、光を分解してみることができます。

今回は、簡単な工作として、円筒の片端にアルミホイールでつくったスリットを、もう一端に SOLF を貼り付けて、簡単な分光計を製作してみました。

あんまり精度は良くないので、蛍光灯の蛍光は分解するものの、フォランフォーファー線などの微細なところはわかりません。でも、光学の学習には、グレーティングと同じように便利に使うことができます。



簡易分光計と蛍光灯のスペクトル

Books & CDs エレガントな宇宙/ブライアン・グリーン

2010 年 4 月号で「宇宙を織りなすもの」を紹介しましたが、本書は同一の作者がその 8 年前に著した類似テーマの書籍です。今回、新刊の「隠れていた宇宙」を買ったのとあわせて、中古をワンクリックで購入しました。

「宇宙を織りなすもの」と同様に、この書籍は物理学の発展の歴史を辿りながら、超ひも理論の未来に向けた概念をわかりやすく説明してくれています。

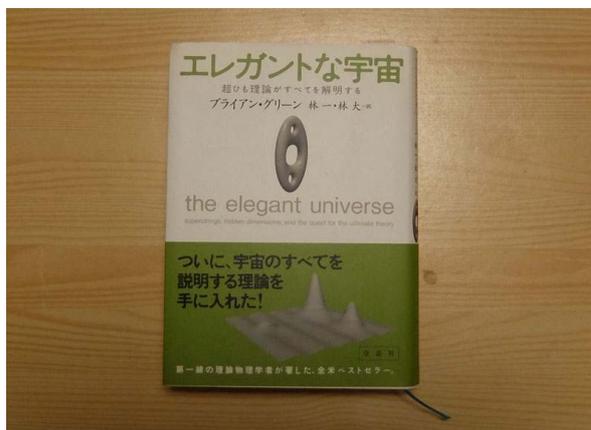
同じテーマの書籍ということで、内容も似通っているのではないかと少し心配しましたが、いやどうして新しい発見がいっぱいの読み応えのある一冊でした。

ニュートン力学はともかくも、量子論とか相対性理論というのは、数式を示されても何を意味しているのか理解できないし、科学啓蒙書で断片的に紹介されている解説は、合点がいくというよりは煙に巻かれた感ばかりが先行し

て、もやもやとした気持ちになることが良くあります。

その点でこの書籍では「おお！」という感動が随所にちりばめられていて、とても気分よくなりました。

少し古い(2001 年)書籍ですが、お勧めの一冊です。



編集雑記

今回の月食は、急の東京出張で観望計画の変更を余儀なくされました。出張のついでに撮影となると、機材一式を仕事道具と一緒に運ばねばなりません。

かくして普段は書類を入れている出張用のブリーフケースは、殆どカメラバッグと化してしまいました。

とても重い目をしました。その甲斐があって、素敵な景色と写真を手に入れることができました。

